

## 感染症情報 2月26日～3月4日

府下小児科199療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	998例(堺市	52例)
②溶連菌感染症	457例(堺市	31例)
③RSウイルス感染症	109例(堺市	8例)
④突発性発疹	62例(堺市	5例)
⑤みずぼうそう	44例(堺市	1例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 4603例(堺市 390例)

が報告された。

感染症報告数は前週比2.5%増の1,795件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹、みずぼうそうの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より3%減、堺市では前週より13%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より20%増、堺市で前週22例→今回31例で41%増であった。RSウイルス感染症は府下で前週比2%減、堺市で前週4例→今回8例であった。みずぼうそうは府下で前週が57例→今回44例で23%減、堺市では前週が0例→今回は1例であった。

インフルエンザは府下で前週6193例→今回4603例で26%減、堺市では前週537例→今回390例で27%減となった。定点当たりでは前週が20.3で、今回は15.1であった。1、2月の大阪府内のウイルス検出状況はB型が52%、AH3(いわゆるA香港型)が35%、AH1pdm09(いわゆる新型)が13%であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。